



JST「さくらサイエンスプログラム」及び令和4年度学長教育助成制度連携
地域協働によるグローバル・ドミトリー (G-DORM) プログラム



G-DORM 学生交流プログラム 2022 ハイブリッド国際共修 (夏休み短期集中) 新潟大学からの参加者募集について【学部生・院生ともに対象】

7月15日(金) 15時締切

新潟大学工学部附属工学力教育センターでは、G-DORM 学生交流プログラム 2022 ハイブリッド国際共修 (8/19~8/31, 夏休み短期集中) に参加する学部生および院生を募集します。

G-DORM 学生交流プログラムは、新潟地域企業との協働によるグループワーク・インターンシップ (略称: GW インターンシップ) を主として、メコン諸国等の学生と新潟大の学生が専攻・学年・国籍混合の小グループとなってグループワークに取り組みます。今回は、こうした国際交流と課題解決型学習 (PBL: Project Based Learning) を組み合わせた海外学生との交流プログラムを「国際オンライン協働学習 (COIL: Collaborative Online International Learning)」として実施します。単なる英語学習ではなく、実践的 PBL として計画されており、経済社会活動の急速なグローバル化を背景とした社会的要請に対応しています。

本プログラムに参加するメリット: 少子高齢化(人口減少)による国内市場縮小や、アジア諸国の低賃金な労働力などから、日本の理工系地域企業でもグローバルな視点から課題を発見・解決できる人材が必要とされています。このプログラムに参加することで、以下のようなことが期待できます。すなわち、今後の勉学や研究活動に有益であるのみならず、将来のキャリア活動での自己アピールにも有用です。

- 新潟の地域企業がグローバル化の流れの中で、どのようにして成長・高度化し、国際展開を図っていったのか、というプロセスについて、企業経営者から直接的に話を伺いながら学ぶこと。
- メコン諸国等の学生とのオンラインでのグループワークを通して、国によって異なる課題やニーズについて把握し、その課題解決や地域・産業創生についてリアリティをもって学ぶこと。
- メコン諸国等の学生とのオンライン交流により、異文化理解や国際協調性、英語コミュニケーション能力が向上すること。

なお、活動状況や提出されたレポートを総合的に判断し、一定の評価を得た学生には、単位(原則、2単位)が付与されます。

本プログラムの参加により、オンラインでの国際的な学生交流を経験することで自信が付き、今後、実際に留学したり、海外で就業したりする際の有用な知識や経験を得ることが出来ます。また、昨今、海外関係業務のオンライン化が進み、ITを活用して海外事業を運営する能力も重視されています。

今年度は、今回の募集に加え、以下の留学プログラムを実施する計画です(工学部生優先です)。

- ①オンライン国際共修プログラム【第4ターム】(9月に募集説明)
- ②英語での講義【第3~4ターム】+短期派遣【春休み】のブレンド型プログラム(9月に募集説明)
- ③中期派遣プログラム(11月以降、詳細は未定、希望者は要相談)

春休みの短期派遣は、上記②のように工学部が指定する英語での講義受講者のみ奨学金申請資格が得られます(8枠あり)。但し、今年度に限り、春休みの短期派遣は、本プログラムを含む、これまで G-DORM の参加経験学生の奨学金申請応募枠を5枠設けます(応募者多数の場合は選抜を実施)。

今後の留学へのステップアップとして、今回の交流プログラムにぜひ積極的に応募してください。

1. 活動期間・募集人数及びプログラムの概要

- 1) 活動期間：2022年8月19日～2022年8月31日（休日除く）
 毎日、午前の部 10:30～13:00、午後の部 14:30～17:00（企業訪問時等変更の場合あり）
 なお、上記の活動に加え、事前・事後学習、「9/27 燕市での合同発表会」があります。
- 2) 募集人数：最大 12 名（学部生・院生合わせて） ※応募多数の場合は学部生を優先。
- 3) 実施形態：海外とはオンライン接続し、新潟大学の学生（正規留学生を含む）は、大学もしくは燕市で集合し対面で取り組むハイブリッド型。
- 4) テーマ：

「燕の技術をメコンに展開することでメコンの SDGs 課題解決に貢献する」

本プログラムは、公益社団法人つばめいととの協力の下、燕市内企業 5～6 社と連携して実施します。燕市は、全国でも有数の金属加工技術を有する産業地域です。これまでも燕市内の企業は、生産技術、生産規模、品質管理の改善等により、国際的な市場開拓を進めています（燕市の産業発展については、下記 URL の「燕市ものづくりサイト」（燕市役所）を参照）。

<https://www.city.tsubame.niigata.jp/monodukuri/index.html>

本プログラムでは、①燕市の産業・企業の技術的特徴や国際関係（国際展開、国際競争力など）の発展の経緯や現状を理解した上で、②メコン諸国等との文化の違いを考慮し、メコン地域において製品・技術を普及させ、かつ SDGs（国連の持続可能な開発目標）関連課題の解決に資するアイデアを提案することに取り組みます。これにより、国文化の違いを踏まえた上で、実社会への課題解決に向けた技術の適用についてより深く理解することを目指します。

なお、新潟大学工学部と公益社団法人つばめいととの協働プログラムは、第 3 回「学生が選ぶインターンシップアワード」（2020 年）において優秀賞を受賞しました。また、令和 3 年度は学長教育賞を受賞しています。こうした実績に基づき企画立案された学習効果の高いプログラムです。

- 5) 活動スケジュール（仮）：

開始以前（8月19日より前）：事前学習（英語学習、オンデマンド講義、事前自己評価等）

8月19日（金）：ガイダンス、アイスブレイク、海外と活動内容理解のためのオンライン GW

8月20日（土）：休日（フリー）

8月21日（日）：休日（フリー）

8月22日（月）：企業訪問で製品・技術の理解醸成。海外と仮説構築のためのオンライン GW

8月23日（火）：海外と仮説構築のためのオンライン GW（継続）。全体で GW の結果を共有

8月24日（水）：企業とのオンライン会議による仮説提示。企業の助言を踏まえ仮説を改善

8月25日（木）：企業訪問で仮説検証に要す情報を収集。海外と課題解決提案のオンライン GW

8月26日（金）：企業とのオンライン会議による提案提示。企業の助言を踏まえ提案を改善

8月27日（土）：休日（フリー）

8月28日（日）：休日（フリー）

8月29日（月）：オンライン中間発表会。発表内容の修正のためのオンライン GW。

8月30日（火）：最終発表準備とオンライン最終発表会

8月31日（水）：学びの振り返りのためのオンライン GW

終了後（9月中）：事後学習（レポート、事後自己評価等）及び「9/27 燕市での合同発表会」

※上記は、今後の調整や、新型コロナウイルス感染症の状況悪化等により、一部変更になる恐れがあることを予めご承知ください。

2. 参加費用

参加費は不要です。なお、昼食を要する場合は自己負担となります。(通常の講義と同じ扱い)。

燕市の企業訪問時の交通費(内野駅 - 吉田駅間の電車代切符)は大学から支給、吉田駅からの移動手段は企業により提供予定です。

3. 応募に当たっての注意事項

応募に際しては、下記事項について必ず承諾の上で行ってください。

- 本プログラムでは活動報告やレポート等の課題を提出して頂きます。なお、本プログラム中の活動状況や、提出された課題を総合的に判断し、一定の評価を得た学生には、相応の単位(原則として、2単位)が付与される予定です。
- 緊急事態がない限り、本プログラムの途中参加は認められません。
- 病気・けが等のやむを得ない理由がない限り、本プログラムの活動には、原則全て出席して下さい。9月27日に実施予定の「燕市での合同発表会」への出席も必要です。
- 企業とのインターンシップ活動は、オンラインの場合でも、ビジネスマナーを守り、節度のある行動に励んでください。企業との活動において、怠慢な態度であったり、理由もなく遅刻・無断欠席をしたりした場合は、企業から中断を言い渡されることもあり得ます。
- メコン諸国等の大学生等との英語での討論となりますが、積極的に議論に参加する意欲をもって参加してください。なお、本プログラムには、本学に正規留学し、既に来日している外国人学生も参加する予定のため、オンラインだけでなく、大学や企業での対面活動時も英語での討論を行います。
- メコン諸国等の大学生との交流に際しては、各国の文化を尊重しつつ、行動してください。
- 学年担当(3年までの場合・工学部学生のみ)/指導教員(4年以上の場合)に本プログラムへの参加意志を予め伝えた上で、応募してください。
- 本プログラムの活動の様子を撮影した写真・ビデオは、広報活用や、今後のオンライン国際交流プログラムの教材資料として活用させて頂くことに、予めご了承ください。
- 本プログラム終了後にG-DORMの改善・発展のための活動(説明会での経験談や経験学生としてのサポート、プログラム改善のためのフィードバック等)に協力を求めます。予めご承知ください。
- 本プログラム参加に当たって、英語力向上効果を測るため、プログラム開始前とプログラム終了後にTOEIC等の英語資格試験の受験を推奨します。獲得した資格や英語スコア情報について、本学工学部に情報提供頂くよう、ご協力をお願いします。なお、提供頂いた情報は統計的に処理した上で活用するため、個別の情報を公開することはありません。

4. 応募方法

指定の参加申込書(表裏とも)に記入し、PDFとして保存したファイルを、**2022年7月15日(金) 15時** ~~2022年7月12日(火) 正午~~までに、下記提出先のメールアドレスまで、メールにて提出してください。**【※申込期限を延長しました】**

【提出先】 g-dorm-j@eng.niigata-u.ac.jp

新潟大学工学部工学力教育センター国際教育部門(担当:中野)

5. 選考方法

(1) 書類選考・面接の実施

- ・ 提出書類をもとに書類選考を行います。必要な場合は面接を実施します。面接実施の場合は、実施日時をメールにて連絡します。

(2) 採否の決定

- ・ 提出書類や面接結果、英語スコア、学業成績をもとに、参加意欲や英語力などを総合的に評価して採否を決定します。

6. 単位について

参加学生には、レポートを提出していただきます。活動状況や提出された課題等を総合的に判断し、一定の評価を得た学生には、以下のように単位を付与する予定です。

- ・ 学部生の場合：原則として、工学部専門科目「国際テクノロジー・グループワーク・インターンシップ A」(2 単位)。
- ・ 大学院生の場合：原則として、自然科学研究科課程共通科目「国際テクノロジー・グループワーク・インターンシップ S」(2 単位)。

※既に上記科目を履修済みで本プログラムへの応募申請をご検討されている方は、単位付与について、事前に下記担当にお問合せをお願いします。

7. お問い合わせ

工学部・工学力教育センター・国際教育部門の教職員にお気軽にお問合せください。

担当：中野 (025-262-7290), 上田 (025-262-7025), 馬場 (025-262-7369)

メール g-dorm@eng.niigata-u.ac.jp

G-DORM プロジェクトのホームページ・SNS を是非ご覧下さい！

Homepage: <http://www.eng.niigata-u.ac.jp/~g-dorm/>

Facebook: <https://www.facebook.com/gdorm.niigata/>

Instagram: https://www.instagram.com/g_dorm_niigatauniv/

ホームページ



Facebook



(参考) メコン諸国側の参加大学について

<p>王立プノンペン大学 (カンボジア)</p>   <p>1960年設立。理学部，工学部，開発学部，人文社会科学学部，教育学部の5学部と外国語研究所の1研究所を擁する総合大学で，カンボジアの教育・研究をけん引するリーディング大学。インターンシップなどの実践的教育にも積極的に取り組んでいる。</p> <p>http://www.rupp.edu.kh/</p>	<p>ラオス国立大学 (ラオス)</p>   <p>1996年に設立されたラオス最大の国立の総合大学。11学部を擁する総合大学であり，ラオスの教育・研究をけん引するリーディング大学。理工系としては，工学部，農学部，理学部，建築学部，環境学部等の他分野を有する。ラオスに進出する日系企業との交流実績もある。</p> <p>http://nuol.edu.la/index.php/en/</p>
<p>チュラロンコン大学 (タイ)</p>   <p>タイで最初に創設された17学部を擁する総合大学。国際的なアジアの大学ランキング上位で，タイ国内でもランキング2位の教育・研究の拠点大学。日本の大学との交流は盛んで，多くの学生が受入派遣されている。</p> <p>http://www.chula.ac.th/en/</p>	<p>ハノイ工科大学 (ベトナム)</p>   <p>1956年に設立されたハノイ市の旧市街に位置する国立大学。17学部，8研究所，4リサーチセンターで構成され，ベトナムのリーディング大学の1つ。ベトナムの工学及び農学分野の教育・研究をけん引する中心的役割を果たしている。</p> <p>https://en.hust.edu.vn/home</p>

参考情報

本プログラムの概要説明動画

<https://fb.watch/dw7lCXc6cR/>

G-DORM Web サイト「学生の声」※これまでの G-DORM プログラム参加学生の体験談

<https://www.eng.niigata-u.ac.jp/~g-dorm/contents/voice/?prog=outbound>

これまでに本プログラムには，工学部・大学院自然科学研究科以外に，農学部，人文学部，法学部，創生学部，経済科学部から参加がありました。皆さんの参加をお待ちしています！